

(別添資料1)

事業所名

ぴっころ16・16プラス

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7

年

3月

24日

法人（事業所）理念		「ともに手を取り合い笑顔で暮らせる毎日」を方針とし、お子様の「出来る」を最大限に広げ「自立」に必要な療育を行ないます。									
支援方針		年齢やお子様の目標に合わせたグループ分けを行ない、就園・就学を見据えて小集団に慣れるよう支援します。小集団(身辺自立・生活場面)や個別活動といった様々な視点から社会性やコミュニケーション力を高める支援を行ない、『5年後10年後の社会に出た時の活躍』を見通した関わりをしています。									
営業時間		月～金 第2・4土曜	9 時	0 分	から	18 時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	1日の生活リズムを整える。来所時の身辺処理等の日常動作が定着するよう支援。 お子様の今後の就園・就学に合わせた排泄動作の支援。 食事を通して食具の使用方法を作業療法士や保育士が。咀嚼・嚥下の評価を言語聴覚士が行ない、ご家庭へのフィードバックを行なう。									
	運動・感覚	聴覚・前庭覚・固有覚・触覚・視覚の五感や注意機能の評価を作業療法士が行ない、活動や日常生活の工夫に繋げる。 姿勢保持や適切な机・椅子の高さの評価を行ない、ご家庭や保育園での生活に繋げる。 様々な感覚の受け取りを経験出来るよう、運動遊びや感覚遊びを行ない、苦手な感覚でも挑戦する意欲を育てる支援を行なう。									
	認知・行動	聴覚・前庭覚・固有覚・触覚・視覚の五感を十分に活用し、必要な情報を処理しながら適切な行動が取れるよう、環境整備や個別での声掛けを行ない、成功体験に繋げる。 物の機能やカテゴリー、時間や形の概念形成を図る。そして数量や大小の比較に繋げる。 物事の受け取り方や解釈の偏り等の心理現象に対して、適切な情報の処理・解釈を基に行動が取れるように支援する。									
	言語 コミュニケーション	他者との相互的なやりとりが出来るよう、コミュニケーション土台の形成やコミュニケーション能力の向上を図る。 指さしや身振り等を用いり、職員が代弁をしていく事で、気持ちが伝わった成功体験を積み重ねていく。									
	人間関係 社会性	場面の理解や集団生活でのルール・社会性を伝えていき、実生活になる幼稚園・保育園や学校へ般化するよう支援を行なう。 他者の発言や気持ちを汲み取る他者視点の獲得が出来るよう、代弁や場面の整理を行なう。 自由遊びや活動を通して、職員や他児との信頼構築を行ないます。その中で他者と遊びを共有した、成功した喜びから情緒の支援に繋げる。									
家族支援		送迎、面談等を通して日常生活・集団生活の中での困り感、心配な事に対して相談支援を行ない、お子様に合った情報を共有する。また、オンラインでお子様の様子を見て頂き、支援の内容を説明する。教育・就学相談の説明会実施。					移行支援		就園・就学先への情報共有や見学等でケース会議の実施。保護者様への相談支援や情報共有。		
地域支援・地域連携		実生活になる幼稚園・保育園や学校への訪問、情報共有。 札幌市の自立支援協議会や東区地域部会子ども部会への参加。					職員の質の向上		避難訓練、虐待防止等の研修を定期的に行なう。また、事業所内研修や外部研修を行ない、スキル向上を目指す。毎日の支援内容を全体で振り返り、支援の向上に繋げる。		
主な行事等		各季節ごとの製作 7月：果物狩り 8月：バーベキュー、水遊び 10月：ハロウィン製作 12月：クリスマス会 1月：餅つき、初詣 2月豆まき 第2土曜：お出掛け 第4土曜：クッキング 避難訓練(年3回) 教育・就学相談 ST・OTによるお勉強会									